

甲状腺検査対象者及び関係者への聞き取り結果
 <保護者>

Dさん (D)	中通り	中学生保護者	女性
Eさん (E)	中通り	高校生保護者	男性
Fさん (F)	会津	中学生保護者	女性
Gさん (G)	会津	高校生保護者	男性
Hさん (H)	浜通り	中学生保護者	男性
Iさん (I)	浜通り	高校生保護者	男性

1. <甲状腺に対する知識>

○そもそも「甲状腺」という臓器を知っているか？

E：震災の前のことでは、知らない。みなさんそうなのでは。それを主体とした話題は一切、当たり前前にはない。

F：震災になって検査するというこの件で知ったくらいで、あんまり全然知らなかったです。震災がなかったらこのことも特に知らないまま、一個の臓器くらいで名前は聞いたことあるくらいで過ごしていたと思う。

H：甲状腺の働きと放射線の関係の知識は震災まではなかった。震災後に知識があった方がいいだろうということで、放射線の取り扱いに関する講習を受けたので、今は知識は何となくある。

I：みんな知らないと思いますよ。こんなところに小さい臓器があることも知りませんでした。

○甲状腺について、自分で情報を得たことはあるか？

D：テレビの情報とネットで見たり。線量が高いところは普段から高いということも聞いていたし、定期的に検査をしていただけると県や市からの連絡もあった。被ばく量の比較もみて、だと問題ないと判断して避難することもなかった。あとは医師に聞いても、問題ない量だと聞いた。最初のころは、被ばく量についてレントゲン撮っても受けるくらいだし普通に生活する分は大丈夫だろうということになった。今は話題にもならない。今は感染症の方が話題。

E：報道等で。あとはいろいろな情報が錯綜していて、甲状腺がんの人がチェルノブイリ関係の人に多いなど聞いた。自分では調べなかったが医師である友人としゃべったりした。

F：なんか調べたのかなあ震災の後。悪い情報だけが一番最初に来るので、放射線のせいで甲状腺がんになるんじゃないかっていう悪い情報だけは、いち早く飛んできて…。結構テレビでやったりして、震災の数か月以内のことですよ。

G：息子が一回確か、ノーマークではなかったと思う。影があるかもというときだけ調べましたけど、おそらく大丈夫だろうというネットの情報だったので、まあ大丈夫なんだろうなあ。

H：震災後に放射線の取り扱いに関する講習を受けたので、知識は何となくある。

I：調べましたよ。ネットで。

○普段、知りたいことや調べたいことは何を使って（媒体）情報を得ているか

D：スマホ。新聞とネットニュース、テレビ。ネットはヤフーニュース。新聞は地元の新聞をとっている。子どものスポーツの結果やイベントごとが載るので。

E：スマホ。PCではヤフー。日々の情報源は新聞とインターネット。新聞は地元。甲状腺にかかわらず、情報収集はちょこちょこ。

F：そうですね、スマホを手にしてからはそれが一番早いですよね。アンドロイド。グーグルとかで調べる。グーグルが多い。ニュースはヤフーも見ますが、auのニュースサイトをバーツと見たり、あとはニュースと新聞。新聞は地元の新聞を取っています。テレビはNHKをはじめとしているんなチャンネルを見えています。

G：ネットでグーグルとか。全体的には普通にテレビを見る。ニュースを見る。あとはグーグル、ヤフーのトピックスは見る。

H：ヤフーを使う。ニュースはヤフーニュース。新聞は地元の新聞を読む。会社でたまに他の新聞を見る。

I：やっぱりみんなネットで調べるんじゃないですか。仕事関係で聞くんですけど新聞取るか周りに聞いたら取らないでスマホの広告が多いです。スマホがみんな多いと思います。

2. <甲状腺疾患に対する知識>

○甲状腺に、ふつうの人でも、「がん」ではない命に別段、悪い影響を与えないデキモノ（腺腫や結節とかって言うんだけど）が出来ることがあると、ご存知か？

E：がん以外にもバセドウとのう胞ぐらいいは知っている。震災前は意識外。

F：甲状腺の検査が子どもに始まって、結果が来るんですよ。次男が2，3個のう胞があると結果が出たんですよ。それを見たときはちょっとヒヤッとした。でも説明書きを見ると問題がない範囲だとか、がん直接影响到はないとかって書いてあったので、私はそれ以上はもういいと思ってそれを信じて…。来た文章がすべてなのかなって信じて。悪い情報を探そうと思えば探せるんですけど、あんまり信じていない。自分で選んでるって言うか。それ以外は意識したことはあんまりない。

G：少し疾患は勉強した。

H：甲状腺の疾患があるというのはあることは知っている。バセドウもそうですね。

I：甲状腺にかかわることですか？もう意識がないです。甲状腺ががんになるというのが2，3年あったと思うんですけど、今になってがんのためにいる人は少ないと思います。

3. <放射線健康被害についての知識>

○福島原発事故に関する放射線の人体に及ぼす影響についてどのくらい具体的に理解していると思うか？

D：事故当時は外に出るのを控えてもらったり、ホットスポットは気になったので気を付けていた。今は、放射線量を見たり聞いたりしたうえで特に制限はかけておらず、気にかけていない。大丈夫と思ったのは、子どもが小学校に入ってからなので、5～6年たったころから。今は給食なども厳しくやっているときいて、食の安全も確保されていると知ったので5、6年たったころには外出の制限もそこまでしなくなった。食品もちゃんと検査をされたものが出回っていると分かった。時間と検査をした結果を県が出したり、ニュースで見ただけで、帰還の準備をしていたのも聞いて、自分で判断した。最近では、肥満児が多いことなども震災後、気になっている。

E：実感値というのは、2011年から2、3年くらいは常に気を付けていたし情報も調べていた。そこから除染が終わってきて、自分の自宅の庭の除染も終わったあたりから。震災から3、4年くらいで積極的に放射線の被害について調べることはなくなった。調べなくなったのは、意識（することがなくなっていったこと）だと思う。3、4年ほど経って、徐々に消えていった。最初は考えていたが2、3年たって除染がある程度進んでからは、情報を知る必要性が低い。

F：浜通りの人が避難してきたんですね。それでびっくりした。家族が炊き出しとかお手伝いに行っていたので大変そうだなあって。みんなつらいなあ帰れないんだなあって。会津としては、こっち方面に風が来たってすぐニュースになって会津は磐梯山が守ってくれたんだって、という話が次の次の日くらいとかになった。私はそういう風に聞いた。つらい人もいますですけど、まだましな方だね。と。幼稚園でも避難した人が自主避難ですごくいっぱいいた。家から出せないというのが会津だと大丈夫だといって引っ越してきた。震災後の翌月。4月から。会津だと公園にも出れるし。全然気にしていない生活だったんですね。公園でも遊んだし。土は触っちゃいけないとはなってたけど、土さえ触らなければブランコ乗ったり、滑り台滑ったりはオッケーだったので。幼稚園とか学校からそういう指導があったので。私はあんまり恐怖心はなかったです。同じ幼稚園でも、恐怖心が強い人弱い人っているの。自主避難してきた人なんかは本当に。あとは福島県産の牛乳は飲ませないとか。県内産の野菜は食べさせたくないとかいう人はいた。

G：うーん、仕事に関わるものだけくらい。

H：講習を受けたことで学びました。どれだけ覚えているかですが。

I：そういう放射線を浴びるとがんになるという知識しかないです。甲状腺もそうですけど、放射能自体が人体に及ぼすか分かんないですけど、体が悪くなるという漠然としたもの。インターネットで放射能の影響を調べたりした。他の地域で福島県人との結婚は避けたとかいう（遺伝的なもの）のも聞いた。偏見がすごかったんでしょうね。こんなのは序の口ですよ。車で行くと福島県人お断りとか。放射能を持ってきたと思われたり。爆発して1年くらいはやっぱりみんなが騒いだ時、他のところに行くと放射能をまき散らすと。福島県ナンバーは大変でした。私はそういううわさをたくさん聞いたので他県での車の移動は控えました。今は全くないです。

4. <県民健康調査の結果について>

○福島第一原子力発電所の事故による放射能の影響などもあって、「県民健康調査」という福島県だけで行われている健康診断が行われているが、その「結果」を確認したり、見聞きしたことはあるか？

D：見たりもしますが、ネットなどで。毎回は見ない。子どもの結果が来た時に見るくらい。あ

と学校でホールボディカウンターをやった時の結果などを見る。最近は量も出ないことが多いので結果もみない。

E：ないですね。新聞とかに結果があるのとかも知らない。あまり、意識していない、県民失格だと思いますが。

F：見たことないです。子どもの結果だけは見ます。話題としても一切聞いたことがない。年々薄くなっていったし、気にしたのは最初の1、2年くらい。

G：見ていないですね。家内も見えていないと思いますね。子どもの結果は見ます。一緒に夫婦で見た記憶はないんですけど、来たら見て、一回何かがあった時は二人でなにこれ一となった。あとは問題ないなと置いておいたぐらい。そこで引っかかれば調べたりしたかもしれないが、問題なかったので県の結果とかも見ずに終わった。

H：知っているが、私としては不安がないから、結果は私は気にしていない。妻は単純にどういう結果かということが気になると思うが、見ているようだ。甲状腺検査の結果はこうだったよという話はする。

I：あんまり意識がないです。行われていることは知っていましたが、結果には意識がないです。意識のある人ない人の差があると思います。

5. <福島第一原子力発電所の事故による放射能の影響について>

○福島第一原子力発電所の事故による放射能の影響などについて、正しい知識や客観的な（きちんと調べられ、信用できる）知識に触れていると思うか？（健康障害として）

D：惑わされたくはないと思っている。自分の中で絶対的な信頼として見ているわけではないが、県が出すものくらいしか見ない。放射線と検索すると出てくるので見にくいとかはない。そっちより今はコロナについて私も子どもも思っている。

E：ない。震災から2、3年までしか積極的に調べていない。自分から能動的に放射能とか健康についてアクセスすることはほぼない。身の回りの人もそうだと思う。自分の周りも含めて、健康そのものよりも、どうやって街を復興しようとかどうやって街を良くしようと考えていた。やはり健康というよりそっち。医療に携わる人からの講演を聞いて分かった気になって、また街づくりをするという感じ。

F：甲状腺の検査をするっていうことでがんに直結してくるのかなって。甲状腺がんっていうと。遺伝とかはそこまではないですね。ちょっと楽観的かもしれませんが、会津では大丈夫なんじゃないかっていう感覚ですね。モニタリングポストの数値も会津は低いからよしよし、みたいな。あの数値は今も見えていますよ。10年前に比べると半分近くになったなあって実感しています。放射線検査のことについて手紙が来るんですよ。それを見るだけでも、私は信じるので、ふーんと。今回はチェルノブイリのがんと今回の震災とは違うよと書いてあって…。

G：なんか最初のころは国が隠蔽しているとかそういう話があったんですけど、私は発信元はそこしかないし、それに関しては100%じゃなかったかもしれないがそれを鵜呑みにして信じて動こうとしていた。あとは自分の価値観で動いた。

H：どういう情報があるかをまっさらな状態で見て、自分の価値観で信頼度を決めている。

I：正しい情報というのは、行政が言うのは正しいと思っちゃいます。報道も色が出てしまうから、本当なの？と思ってしまう。私の意識としてはそうです。

6. <福島第一原子力発電所の事故による放射能の影響についての話題>

○ご家庭で、ご家族で、福島第一原子力発電所の事故による放射能の影響などについての話題は出たか？今もあるか？親戚やご友人では話題は出るか？

D：線量を比較して高いところに行かないようにしようとはなったが、ここで生活して検査もして高い数値が出ないなら大丈夫だよねと。防護をもっとしようとはならず、この中でどうやっていけるかなという話が多かった。今はみんな調べることができるので、一般の方も知っている。不安な人は避難したり、県外に出たりしていた。情報として偏りはあるのかもしれないが、学校で放射線教室を定期的にやっていたので、普通のお母さんでも全く無知ということはなかった。こういうことに気を付ければいいんだよね、など、知っていたと思う。お父さんの方が、若干楽観的、大丈夫じゃないか？という方が多い。

運動会もすることに関して、お母さんの方が慎重だった。修学旅行中に震災があったら…なども話題になった。運動会では、時間をどれくらいでやるかなど、低学年はずっと外にいるのかなど。そういう意見を出すのはお母さんが多かった。そもそも説明会はお母さんの方が出席してくれるので。私としては、やれることはやった方がいいと。時間などは気にかけていたり、低学年の子は高学年の子より気に掛ける必要はあるのかなとは考えた。

不安な人の気持ちの払拭はできなかったが、こういう対策でやっているといっているのでも、それでも不安なら先生と相談するなどを。私から絶対大丈夫とは言えない。身近な人に聞かれたら、短時間だし私は大丈夫だと思うけど、ということも言っていた。

みんながみんなそうではないと思うが「大丈夫だよね」という人がいた。あとは、心配な人は運動会には出さない、認めない、などはあった。最初のころはあった。給食でも検査をしているのに不安を持っている人は、今は少ないと思うが当時はいた。牛乳は飲ませたくないということから飲ませない人がいるということは先生から聞いた。

地元の食べ物に関しては、最初は、直後は私も不安だった。いつから大丈夫かというのは、検査をしてこういう流れで市場に出ますという聞いても不安で、1、2年たってから美味しく食べられるのは地元のものなので…。それまでは避けていた。

E：あまりない。そもそも仕事で家にいなかったから、家庭のことを考えていなかった。原発どうこうという話題は出なかった。

F：原発のことは子どもがちっちゃいときはいろんなもの触ったりするから気にしていましたけど、子どもの成長とともにそんな気持ちも薄れちゃって…。

G：夏ぐらいまでだったと思う。時間が経って、ということですね。あとは子どもたちの甲状腺への影響はテレビで言っていたので、そこに関してはまだだった。逃げなきゃいけないということではなかったけれど、にわか知識はあった。国から検査をどんどんやっていくよという話はあったのでそれにのっかってそれに任せるしかないとは思っていた。でもそれではだめじゃないかという保護者もいた。線量を測っても半信半疑な人も結構いた。

H：私が最初から、大丈夫だから、草むしりとか大丈夫だから。と言っていた。子どもは30 km圏内の実家に行ったりしてもいいと思うと言った。普通なら遊んじゃダメとかいうかもしれないが私は言わなかった。嫁はそれを見ていたので、納得いただいた。妻の両親は気にしていたが、大丈夫だと言ったし、そういうのを気にするストレスの方が体に悪いと思うと言った。周囲では、

心配している人は自主避難している人もいた。それぞれの考え方があるし、一律でどうということとはなかった。その傾向、どういう人にそういう傾向があるのかは、読めない。実家が30km圏内になるが、こっち来てもいいよと言ったが、向こうも大丈夫、食べられるものがあればいいとのことだったので、自分が食べ物持って行くよ、という感じだった。それぞれの考え方があると思う。

I：外に行くのは放射線の雨が降っているとかはひどかったです。あとは避難しましたし、それで帰っていいのかとか、帰ってきていない人もいるし。自分は避難もせずに。嫁は子どもと一緒に県外の実家に帰りました。一か月くらい学校が再開するまで帰ってきませんでした。私は仕事が大事なので、一人で残りました。嫁の両親は嫁に言っていましたけど、俺には言ってこない。おやじ、おふくろの地域はインフラが整っていたので避難する気持ちがなかった。こっちは水もないとなっていた。1か月は私は実家にいた。行政で安心だという情報があって学校が始まるので帰ってきた。周りはみんな避難していた。周りが避難するとみんな避難するんですよね。放射線じゃなくて周りがやばいから私もやばいという感じです。

<甲状腺検査に関して>

その中でも、福島第一原子力発電所の事故による放射能を発生する放射性ヨウ素という物質が大気中に飛散したことから、甲状腺に異常が出ていないか、異常があればできるだけ早期に異常の有無を把握するために甲状腺検査が行われている。

7. <放射線による甲状腺への健康に対する影響について>

○不安や心配に思ったことはあるか？

D：情報を得ており、心配なかった。

E：個人的にはあまり心配はない。意識（することがなくなっていくこと）だと思う。3、4年ほど経って、徐々に消えていった。

F：ふと思えますけど、いやいやそんなことないんじゃないかな特には。と。若干当事者ではないと（思っている。）

G：分からないと言っていたと思う。家内も大丈夫かどうか分からないと思うと言っていたと思う。でもうちは心配性な方ではないので、大人は大丈夫であろうと。それこそ子どもの放射線の蓄積とかはちょっと心配だなと思っていたので。でも会津の子の放射線量であれば、まずないだろうと思っていた。周囲の温度差は、傾斜はあると思う。

H：会社で話題になったことはないが、以前はどうだったかということについて子どもも小さかったので気になってスマホで調べた。数値的にそう問題はないだろうということで落ち着いた。妻は、多少不安がっていたが、半減期などの話もして理解してもらえた。

I：そうですね、子どもの健康被害は心配でした。放射線の影響でがんになるんじゃないとか、成長が止まるんじゃないとか。何かしらの支障が出るんじゃないかと思いました。

○周囲から聞いたことあるか？話題になったとか？周囲に実際に甲状腺がんを発症した方がいるか？

D：子どもが嚢腫ということで一回検査を受けた。一次検査で経過観察だったが、その後このう胞で、二次検査を勧められ、医大で採血などをして問題がないということで経過観察。生検はしていない。このう胞が何ミリと書いてあった。放射線のこともあったが、検査をすれば出るものだと思っていた。本人にも体調の変化もなかった。本人は小さいころからのう胞と言われていたので成長とともに大きくなるのかな、なんて言っていた。一瞬不安はよぎったが、検査をしてフォローされているので、変な話、がんは遅かれ早かれみんなあるので定期検査で早めに受けたのは良かったと思っている。本人にも、県外にいて検査をすることがなかったら見つかっていなかったと思うし、たまたま福島県にいるから、という話はした。本人は強い不安感を抱いているというのはなかった。最初、精密検査を受けてくださいということを見て、ドキッとしたが、甲状腺検査について調べてみると、検査をすれば見つかることもあるということだったので。

検査結果については、調べました。「甲状腺 のう胞」とかで。検査をすれば出てくるものと分かったし、チェルノブイリとは放射線の量など違うと思っていたので、ドキッともしても…

E：程度は分からないがこのう胞がある人はすごく多かったみたい。このう胞はうちの子どもも一回できた。知り合いの医師に聞くと成長の過程でのう胞が出てきて来ることがあるといわれてそうかなと。

自分で調べて総合的に考えて、妻と時間をもって話したわけではないが、報道されるものやマスメディアのものにはお互い気をつけようねと…

F：それで病院に行っている人は聞いたことはない。

G：全く聞いていない。

H：会社で話題になったことはない。周辺ではない。

I：将来大きくなった時にがんになりやすい体になっているとか。父兄の中でも女性が多い。敏感な方はすごいですからね。学校に行くにも測定しながら来たりとか。温度差が激しいです。敏感なお母さんは2、3割いるかいらないか。2割はすごいです。それが善意で言ってるつもりでも8割を煽っているようにしか見えない。お父さんには影響がなかったと思う。そんなに1割ぐらいですかね。お母さんの言いつけを守る子は不安になっていたり。周りで発症した方は聞かない。

8. <子どもの甲状腺検査について>

○お子さんの甲状腺検査に対してどう考えているか？ご兄弟全員、受けているか？個人に任せているか？家庭として統一しているか？

D：下の子は幼稚園のとき、体育館でエコー検査をして連れて行った。病院でホールボディーカウンターを受けさせた。上の子どもたちは小学生だったので学校でやっていただいた。検査に抵抗はなく、やってくださるということでやった。子どもからも嫌がられないし。

E：最初にやり始めた時は、検査は積極的に受けさせたいと思った。異常がないと分かって安心した。そのものはやってよかったと思っている。

子どもは全員受けていると思う。受けているみたいだが、ばらつきがあるようだ。息子は定期的に来るが、娘には来なかったみたい。いろいろ聞くとやっている、やっていないにばらつきがあると聞いた。県外で生まれてすぐこっちに来た人はできないということや、そういう人が後回しにされたり。あとは兄弟でやっているが片方の方が突然やらなくなったりしたなど。そういうのが医療系の女性のネットワークでは話題になるみたいではある。うちは来なかった、ということや県外で生まれてこっちに来たが後回しで結局されなかったりなど。受けるという意味を出

したが、受けられなかったらしい。

上の子は高校生なのでそんな余裕はないみたい。検査について何かなどはなく、検査が来たらやる、下の子は受けるものだと思っている。インフルエンザなどと一緒に。

家族で統一ではない。

F：やっていただいてありがたいなと思っています。学校の時間内でやっているみたいです。みんな漏れなく受けています。大丈夫だということの確認とやってもらっているのがありがたいなと思ったり。データの一環として参加している。これについても円グラフ的なものに反映されると思うんですね、その中の一人として。検査について子どもに聞いたことはあります。でも「やるよー」と言われて嫌だとかの議論はない。主人とそういうのを話したことはない。申し込むのが前提かなというイメージで。最初からやっているから。途中でやめるのは気分がよくないというか。やっていただけるなら無料だし。

G：うちはもう100%受けさせた。当然のごとく。安心のため。受けなかった子もいたという話は聞いた。息子が言っていたような。受けない子もいたよーと。だから僕も受けないとかは全然なかった。

H：妻が案内をみて決めている。

条件が整っている子は受けさせている。上の子は県外なので案内が来ても受けていない。こっちで条件が整うから受けているという感じ。

I：私は受けさせるべきだとは思った。それと同時に半分の気持ちは福島県民だから、そういった検査を受けながら、実験か何かされているんじゃないのと。被災地で将来の人体実験みたいな検査をずっとすることで成長を測って、がんになる、ならないのデータとかを取ってが本来の目的であって、がんになったらどうするの？という意識でした。最初に始まるころはがんの影響があるのかなといった。でも影響がないと分かったら意識がなくなった。2年目以降は受けなくていいんじゃないかなと思った。2回目以降は実際行く必要ないんじゃないのと。嫁もそういった気持ち。学校で行っている人がいるのかという気持ち。

9. <子どもからの質問の経験>

○お子さんから「なぜこんな検査があっているの?」「なぜ受けないといけないの?」と聞かれたらどう答えるか?または過去に同様の話題があれば、どう説明したか?

D：聞かれたかもしれないが、ある程度大きくなって原発のことも知って、やっていくことが自分の健康において必要だからということが分かっていると思う。ガラスバッジは途中から邪魔になって、いらない、とカバンに入れている感じになった。

子どもに説明したことが一回はある。あとは小学校で放射線に関する授業もあるので、ある程度理解してくれていると思う。一緒に聞いたわけではないが、最初のころはあった。

E：今まではないと思う。

F：ないですね。最初は学校で説明がしっかりあったと思います。親からは「だから調べるんだってー」という感じ。「はい、分かりました」という感じ。兄弟間で話すこともなかったです。

G：全然そんな話はなかった。子どもも小さかったのです。

H：学校で説明がされているので、何もなし。「受けなきゃいけないのね」くらい。

I：なかったです。最初のころは万が一の放射線の影響だという話はしたかもしれないが。子どもの理解度はなかった。

10. <甲状腺検査についての福島県立医科大が行っている出張の説明会等について>

○検査について、福島県立医科大が行っている出張の説明会などは受けたことはあるか？

受けていた場合→内容は分かったか？分かりにくかったら、どんなことが分からなかったか？

D：行ける範囲では授業参観の保護者会の一環で。気を付けることや、現在の μSv や表をいただいて分かりやすかった。一般のお母さんたちも理解していたと思う。雨が多いときの排水溝に気をつけて、など。半分以上は安心したと思っている。それから保護者会の活動に参加しないの方が疑問も多いんでしょうけど、参加してないので。参加しない人も学校で半分くらいいる。日程や小さいお子さんがいるなどの事情で。

E：ある。時期は2、3年以内だったと思う。説明会を開く側の立場であることもあった。話は震災の後にフォーカスされるが、覚えていないことが多い。その質問には、どの先生方も分かりやすく見せてくれたと思うが、その当時からすれば見やすかったと思うが今は覚えていない。あの時は放射線の情報は覚えていても、今は覚えていない人が多いのでは。ベクレルとシーベルトの違いも今は分からないのでは。昔はそれで知識を得て安心したいと思っていたと思う。テレビや権威がある先生から聞いて自分の中に知識を入れて安心させてこの街で健やかに生活できるように大丈夫ですよって言えるようにして、県外に流出しないようにしたと思う。

F：なかったです。今初めて聞いた。周囲で聞いたこともなかったです。最初の年はもしかして耳にしたことはあったかもしれないけどそれについても忘れてしまったし…。

G：ないですね。分かんないですね。何か小学校で授業で受けたのかなあ。何か子どもが受けた覚えはあります。いつかも覚えていないですね。

H：あることも知らなかった。妻もない。

I：学校でそういう講習があつて強制的に見た。自主的に見たことはない。親だけ呼ばれる。震災の翌年とか。内容は記憶が薄いんですけど放射線に対する影響とかが話題であった気がします。プロジェクターを使って。思い出せないですけどね。

11. <甲状腺検査に対する説明資料等について>

○検査についての案内パンフレットは見たことあるか？

D：子どもが持って帰ってきたのは見て、子どもと話した。学年が上がってくると、子どもは、またこれ、みたいな感じ。子どもも理解してくれていたと思う。5、6年経ってきたあたりから本人も心配していない。

E：あった。

F：同封されているものだけパラパラーっと見た。

G: ぶっちゃけほとんど見ない。何か大変なことがあったらもっと報道されるだろうし封書で同じように来るのではなく、今回はここは注意だよというのは大々的に出るであろうと思っている。同じように来ているものに関しては大丈夫だと思っている。

H: さっとは見る。

I: 検査は子どもは受けていない。いつやっているかも知らない。女房任せで。パンフレットは最初は見ただけです。

○分かったか？分かりやすかったか？分かるうとしっかり読んだか？毎年、読んでもるか？分かりにくかったら、どんなことが分からなかったか？分かりにくかったことについて、ご自分で調べたりしたことあるか？その場合は、スマホやパソコンを用いるか？周囲との話などあるか？

F: カラーで分かりやすいと思いますよ。最初はわざわざつづりみたいなのをよこされたんですよね。ファイリングするファイル。それに綴っています。せっかくいただいたので。しおりは捨てますけど、結果はファイリングしています。周囲での話は、最近はないですね。当時はどうだったかなあ。若干温度差はあった。「受ける、受けない？」と聞く保護者もいたかも。受けない人は検査に警戒していたのかな。

H: どうですかね。渡されれば見るだろうが、子どもが受けて持ってきても「そうなのね」くらい。

12. <放射線に関する情報について>

○欲しい情報源は得られているか？分かりやすいか？

E: ない。震災から2、3年までしか積極的に調べていない。自分から能動的に放射能とか健康についてアクセスすることはほぼない。身の回りの人もそうだと思う。

F: 私には、実は思うところがあって、自治体で野菜の検査しているんですよ。定期的に。その結果が周知されていないというのが思っている点で、今でもシイタケとかは地元産を使っちゃいけないとかあるんですね。それで、保育園で使わないってなるんですけど、全県民にそれを教えていないというか。自分でホームページに行かなければ、その情報が得られないっていうのもまたちょっとクエスチョンなところ。検査をしていること自体を業者しか知らない。保育園の保護者は知っていると思うんですけど、未就園児の親しかそれを知ることがないので、小中高とか大人の方はそれが分からないので、仕事に携わっているからこんなことを言うんですけど、言っちゃいけないか分からないですけど、せっかく検査をしてお金をかけているなら世間一般にもっと分かりやすい感じで、スーパーの野菜のところに検査済みオッケーとか書いてもらえれば市内の人も安心してもらえると。今みんなは「大丈夫なんだった」と言ってると思う。検査をしてるということをもっとアピールした方がいいと思う。せっかくやっているのに、知っている人だけ知っていればいいやじゃなくて、全県民に知らせてほしいなって。食に関して（情報が得られないというところ）そういうことはあると思います。

G: はじめは国ってよくたたかれるので、福島原発の方もあのかのときの対処がどうとかって話になるけど、私の意見としては国の方も県の方もやれる範囲のことはちゃんとやってもらっていると

信じているので、その時々データの公表に関して、十分かどうかは別として信じていた。誰もが誰もさぼっているわけではなく、未知のもので、何をどうすればいいと思っていたはずなので。結局隠したとかではなくて、タイミングであったり、信じるべきかどうかということもあったと思う。人災は致し方ないかなと思う。だから、ほしい情報があったのかというと心配ではあったし、100%安心できるデータや内容かというとなんて難しいが、私としてはそこを信じて動くしかなかった。ただできるだけ早めに何かがあって、ああこうしておけばよかったとやらなければならなかったから、そう意識はしていた。

H：あくまで新聞紙上か業界新聞のもの程度。一般に近い部分。一般の方なら新聞やテレビ止まり。学校の教育上は、放射線についてやっていると思うが、保護者は講習あるなら行くくらいです。という感じで気にしてない。3、4年経った頃にはもうどうともないという感じ。周りも。校の校庭の除染作業が終わったあたりですかね。やって、数値が下がったよ、放射線区域の上がったこともないよ、などの情報から。

I：メディアや行政から。

13. <甲状腺検査について>

○不安や心配があって受けているのか？

D：最初はやってもらった方がいいというのは聞いたが、時間が経って心配が減っているので、話題が薄れている。今週、検査があるということくらい。不安だね、などの会話はなし。

E：最初にやり始めた時は、不安だから検査は積極的に受けさせたいと思った。

F：そうですね、それは必ず何かあると嫌だなあっていうのは検査だとなんでもあるので、その程度です。何も無いといいなあとと思って結果の通知を開けます。あれは安心にはつながるとは思いません。もし何かあったら、すぐ病院につないでもらえると思うので、それも安心だと思う。

H：私個人としては検査する必要がないと思っている。

○検査は、お子さんにとって、どのように役に立っていると思うか？

D：学校でするので、安心。上の子は学校で卒業すると予定を組んでやらないといけなくて本人の都合が立てにくいという。県外に行く子は難しい。行った方がいいとは思っているが。コロナの状況もあって。あとは学校が再開して忙しいというのもある。中学高校の子たちはやっているが、安心が得られる。その先が検査受けにくいので心配。上の子は自分で探して予定を立ててというのが、面倒くさいと本人は言っている。

E：不安の解消。

F：子どもは実感ないかもしれないですね。震災の後の一つの新しい作業が加わったじゃないですけど…。学校でう胞あったよとか話題は出たことないし見せてとも言わないし見せたこともない。私が見て、「なんでもなかったんだって」と言うだけ。

G：うーん、チェルノブイリだと子どもがいろいろなったと思うんですけど、原発に近かった方も避難できたし、あんなひどくはならなかったので、東日本大震災ということにおいて考えると、震災があったからそれが起こったけれども、医療自体が予防医学的なものがどんどん当然のようにあるように検査を受けるのはメリットとしては予防的な感覚。大丈夫であろう。でも何が起こるか分からない。未知の世界だから。だから受けるべきだと思うし、なにもなければ安心・安全になると思う。

H：子どもからすると「こんな結果だったよ」という程度。

I：やっぱりがんが見つかるか見つからないか。子どもがどう思うかは分からない。甲状腺がんの知識もなかった。

○検査は、自分にとって、どのように役に立っていると思うか？

(回答なければ、病気がないことが分かる、や、病気が見つかる？家族が安心する？お友達同士で安心しあう？など、提案を加える)

D：最初はやってもらった方がいいというのは聞いたが、時間が経って心配が減っているので、話題が薄れている。今週、検査があるということくらい。不安だね、などの会話は無い。

E：異常がないと分かって安心と思った

F：安心材料としてはやっている。もし何かがあったら治療につなげられる。うちは重症なことではなかったけどもしそういうときがあったらもし当事者だったら、なんかすごく原発のことを恨んだりするのかなあ。

G：子どもは何も考えていないので、どれくらいの侵襲性があるかみたことはないんですけど、子どもにとっては侵襲性がない検査だと思っているので、だったらやるべきだと。もっと侵襲性があったらやらなくてもいいんじゃないのと。親としても安心につながる。

H：私個人としては検査する必要がないと思っているので、安心につながっているのかということには疑問だが、子どもが受けて安心だったということに一般的にはつながるのでは。被災した自分の子どもの健康がどうかということが分かるという安心。

I：影響がないという結果は見た。初回は違うかもだけど2回目は当たり前っていう気がした。最初は良かったかもしれないけど2回目はもう。私の意識としては今更？という。街が復興すると同時に意識は薄れた。

○受けることが当たり前、習慣、そんなものだ、と思って受けてるか？

E：検査の通知が来たらみんなが普通だと思って受けている。逆に受けない人がいるんですか？習慣化しているわけではない。受けているから受け続けなきゃねという感じ。習慣化というのはおかしい。せつかく受けられるなら定期的に受ければいいのか。やっぱり、こういう時代に生まれて怖いから受けるというのがベースなのではないか。

F：そうですね。はい。満期になるまで受けたいと思っています。

G: そうですね。初めのころはセシウムとかヨウ素とか？果てしない半減期のものが体に及ぼす影響が分からないですが、国が定めたここまでやるべきだよというものは、ここまでやるべきかなと思う。

H: 親目線だと、「機会があるなら受けておこう」という感じ。子どもとするとおそらく、「やれ」って言われているから。

I: (多くの人が受けていることを聞いて) そうなんですか!?

○検査を受けさせて、よかった、って思うことってあるか？

E: 一番は今のところは病気がないと分かるということ。親として子どもに病気がないと分かるのがメリットで、それ以外に何かあるのかなという感じ。

F: (安心を得るために?) はい、そうだと思います。

G: はい。

H: 安心材料。子どもからすると「こんな結果だったよ」という程度。のう胞が見つかって大きくなったら気にはなるが、でも大丈夫なんですよ、と思う。

○検査で嫌だったことを聞いたことあるか？

D: 抵抗はなく、やってくださるということでやった。子どもからも嫌がられないし。

E: なかった。

F: そういうことは一切なかったです。

G: ないです。

H: ない。「ヌルっとしたのが微妙だ」くらい。

○検査を受けさせることは、何か心配だったか？

D: その心配は特にはしていない。どこかで大丈夫と思っているところがある。出たときはその時に考えるしかないとも思っている。でたらどうしようという不安は持ったことがない。検査しているの?と県外の両親に聞かれたことはあるが、大丈夫だよ、とは言った。両親からも結果について大丈夫なんだよね?と言われる程度。ママ友の間で甲状腺検査について最初はやってもらった方がいいというのは聞いたが、時間が経って心配が減っているので、話題が薄れている。今週、検査があるということくらい。最近では「不安だね」などの会話は無い。

E: なかった。

F: いやー、あんまり考えても無いですけど、何も無いといいなくらいですかねえ。

G：一回引っかけたときはドキッとしました。でも調べて大丈夫だなと思ったので。そのあと、また引かかるんじゃないかと思ったんですけど何もなくてほっとした。受けさせて良かった。

H：ない。安心材料。子どもからすると「こんな結果だったよ」という程度。のう胞が見つかったら大きくなったら気にはなるが、でも大丈夫なんですよ、と思う。

I：最初は不安だった。一回目は放射線の不安がものすごかったので、スクリーニング検査も自分でやりに行った。なんともないってなるとメディアも何もなくて、そしたら不安は、ぱっと消えた。受けてよかったとは思いますが、受けなくても今考えるとよかったのかなと。

○知り合いで何か見つかった人っているか？

D：自分の子が有所見だった。嚢腫ということで一回検査を受けた。一次検査で経過観察だったが、高校3年生の時にのう胞で、二次検査を勧められ、医大で採血などをして問題がないということで経過観察。生検はしていない。

E：程度は分からないがのう胞がある人はすごく多かったみたい。のう胞はうちの子どもも一回できた。知り合いの医師に聞くと成長の過程でのう胞が出てきて来ることがあるといわれてそうかなと。

F：いないですね。

G：ないですね。

H：いない。

14. <甲状腺検査の初回検査について>

○最初は何歳で、どこで受けた？どんな説明を受けたか？

D：下の子は幼稚園のとき、体育館でエコー検査をして連れて行った。ホールボディーカウンターを受けさせた。上の子どもは小学生だったので学校でやっていただいた。

E：最初2回くらいは子どもの結果を見たと思うが妻が私に見せることもなくなった。

F：息子が年中、年長のとき。おじいちゃんは俺だけ早く死ぬからというのがキーワードで、一切気にしないというのが私の周りには多い。

G：多分その当時は来てたんですね。でも受けるのは前提だったし、早く受けてほしかった。おじいさんやおばあさんからなかった。

H：検査が始まった時の記憶は現場に行っていないので分からない。学校の通知があって「やってんのね」くらいです。

I：あんまりなかった。我々の中での話題でした。

○お子さんや、おじいちゃん、おばあちゃん、おうちで、その検査について話したことってあるか？

D：心配だったらいつでも来ていいよと言うことはあった。あとは、私の実家は県外で自宅に被害があり、両親は一時、住むところがなくなった。家がないならこっちに来てもいいよとは私は言ったが、福島は原発があるから、万が一、あなたたちが夫の実家でもどっちにも行けるようにと両親は県外に残っていた。

E：最初はそういうのがあったと思うが、親よりおじいさんおばあさんの方が、検査受けなよとか放射線高いところ行くなよとか心配してくれていると思った。それも2、3年。ある程度ま街の除染が進んでからは無い。

H：子どもと妻と甲状腺検査の結果はこうだったよという話はする。

○周囲のお友達やお友達の親御さんはどう思っている？

D：最初はやってもらった方がいいというのは聞いたが、時間が経って心配が減っているので、話題が薄れている。今週、検査があるということくらい。不安だね、などの会話は無い。心配の違いは、性格的な要素が強いように思う。特に年代でどうということはない。お子さんが小さいお母さんの方が心配がっていたが、学年が上に上がってくるとそこまで心配もなくなってくる。今は話題にはならない。

E：学校の保護者等の中でも2、3年ぐらいしか話題にならなかった

F：そうですね。会津の人はわりかしあんまり…。

G：うちの周りはそんなになかった。

H：いや、ばらばらです。

I：その話題もなかったように思います。

○学校の先生はなんと説明しているかご存知か？

D：検査があるからいつまでに…ということぐらい。

E：分からない。

F：そうですねえ、お預かりしている方の先生方は、やっぱり敏感に対応していると思う。最初のころはやっぱり。

G：学校の先生の話はどうなんだろうなあ。検査とは別で、いろんな状況を思い浮かべると、プール再開のときに全部掃除させたりデータをとらせたりとかが大変だなあと思った。親は入らせたくないっていうけど子どもが入りたいって言ったらどうするんだとか。

H：学校で説明がされているが内容は不明。今はもうしていないと思う。

I：それはちょっと分からない。

15. <甲状腺検査へのメリット／デメリットについて>

○甲状腺検査を受ける、または、受けない、を決定するにあたり、検査のいいこと（得ること、メリット）、損すること（デメリット）の情報を知っているか？

※ 今回の聞き取り対象者の方々にはメリット・デメリットについて記載された「甲状腺検査のお知らせ」等はまだ届いていなかった。

D：考えたことがない。CT やレントゲンなら分かるが、エコーなら。デメリットは考えたこともない。

E：甲状腺検査を受ける対象と受ける人数に差がどれだけあるかも分からないが、デメリットはないと思う。受けるデメリットはあるのかなと逆に思う。受けない人がどれだけかなどの情報は流れてこないのを受けない人が分からないが、受けないデメリットはないと思うし、受けない人について議題にならない。

F：考えたことなかった。デメリットについて見たことも聞いたこともなかった。分からなかった。

G：ないですよ。

H：情報はない。自己としては、メリットは、安心材料。子どもからすると「こんな結果だったよ」という程度。のう胞が見つかって大きくなったら気にはなるが、でも大丈夫なんですよ、と思う。

検査をするデメリットは、前はなかったのう胞が見つかった、など心配事が増えるのでは。そういうのに問題がないということが広がればいいが。二番目の子が、前回のう胞があったということがあったが、それで自分はどうも思わなかった。子どもも特に何も変わらず。最初はドキッとしたのかもしれない。嫁がみて「子どもにあったよ」って言ったと思うが、子ども自身も「ふうん」という感じ。私は問題ないというのでそこで落ち着いたと思う。

I：デメリットは受けたことでモルモット状態で発育過程を見ていくということ。データとして残って何かに使われる、ということ。

16. <甲状腺検査の受診の決定のための情報源について>

○受けることには、いろんな相談相手や情報がありますが、なにを参考にし受けるかどうかを決めているか？

D：検査への抵抗はなく、やってくださるということでやった。子どもからも嫌がられない。

E：検査の通知が来たらみんな行くが普通だと思っている。逆に受けない人がいるんですか？

F：自動的にやる。特に考えない。

H：条件が整っている子は受けさせている。

I：躊躇せず受けますよ、となった。最初は不安だったので。

○その時には、親御さんやお子さんの気持ちもあると思われるが、それぞれのお気持ちはお互いが理解されているか？

H：ない。子どもは「受けなきゃいけない」と言われているだけであって、注射などではなく、「あのヌルっとしたの嫌なんだよね」くらい。両親もない。「検査あるなら受ければいいじゃん」くらい。

○自分の気持ち以外で、だれから？どこから？何か参考にしていることってあるか？

D：ない。

E：特にない。

H：ない。

17. <甲状腺検査が学校の授業中で実施されていることについて>

○学校で検査を、授業中に行っていることは、「強制性」を感じるか？

お子さんの心の中では、受けなければならないという義務感を感じていると思うか？プレッシャーを感じていると思うか？または、みんな受けているから受けているのか？

D：受けないお子さんは教室にいるということを聞いた。半強制みたいな感じだが、親としては学校に行っているうちにできるのはありがたい。

学校の健康診断の一つになっていると思う。小さい子はそう思っていると思う。

E：受けるか受けないかそうしているので、個人の意思で決めればいいのか。

F：そう言われたらそうだけど。確かにそうですね。受けたくないっていう考えの方もいると思うんですけど、その子は何してんのかなってふと今思いますよね。自主勉なのかなあ。それは仕方ないっていうか。お前受けないのかとかそういうことはないとは思いますが、言われてみればそうかもしれませんね。

G：確かに。言われてみれば。もともと肯定派なので授業中にやってもらえて、いいのかなと。土日に出てきてくださいとか放課後やりますよというよりはその時間でやってくれるんだっただけありがたいしいだらうと思っていた。感じてはいなかったと思う。プレッシャーは分かんないですね。気にされる子はすごく気にするし、なんでも物々しい機会でされる子は怖いとは思いますが、繊細な子は嫌なのかもしれませんねえ。うちの子はプレッシャーを感じているわけではないようですが、そういう子もいたかもしれませんね。

H：そうなると思う。

うちの子にはない。「受けるんだー」という感じ。他の子からそういうことも聞いたこともない。任意なのに授業を潰しているという学校側のカリキュラムにおける負担はどうなのかとは思いますが、そういうのを考える時期だと思う。

I：そこまで意識しますかね？甲状腺について。そこまではないと思います。健康診断と一緒に。そこまでの圧力は感じない。子どももプレッシャーを感じていない。家庭で話題に上がった意識もない。

18. <これまで、甲状腺検査が学校以外で行われていたとすると>

○これまで、検査が学校で行われてなかったら、検査を受けさせていたか？

D：受診率は下がると思う。私も毎回は行けないかもしれない。今の方が受けさせやすい。どんなお母さんにとってもそう。

F：そうなると思わなくて行かなかったかもしれない。習い事とかあって。学校でやってくれるから受けさせていたので。行ったとは思いますが、ずっと10年間もその都度公民館に行っていたかというところ、5、6年目からもういいかなと思ったかもしれないですね。

G：受けることに関しては肯定派だったので、なんだかんだ言って受けさせていたと思います。子どもが小さいときは私が検診に連れて行っていたので。本当に大丈夫だよと言われなくなるまでは。私の感覚としては、本当に必要じゃなければやらないんじゃないかなと。ただ、それこそ、それをやることを実験台と思う人もいるのかもしれませんが、nが増えないとデータは出ないから、今後こんなことが起こるとは考えにくいんですけど、あくまでも自分たちの安心のためには連れては行っていた。国がやるって言ったことに関しては実験的とはとらえず、県も親も子どもも安心だというためにやるものだと思う。

H：行かないと思う。知識的に「いいや」という考え。大学に行った子が受けなくていいというのはその判断。

I：おそらくやっていない。授業でやるから学校検診の一環として。初回がそうだったら行かせたでしょうね。2回目からは行ってない。

19. <今後、甲状腺検査が学校の授業時間以外で実施されることになったら>

○もし学校以外で受けることになったら、学校を休んで検査を受けに行かせるか？放課後にやることになったら？土日などは？

D：面倒くさいというのも出てくると思う。学校でやっているから興味関心がない親御さんに受けさせることもできるが、もしそうなると思わない人もいます。

E：そういう話なら放課後にすればいいのでは。放課後になっても、今まで受けているなら受けるのでは。

F：受けなくていいかなと思っちゃうかもしれないです。本人もいいか一ってなるんじゃないかな。半強制っていうのがよかったって言うか。都合がよかった。

G：やっていたと思う。

H：そうなると思わないと思う。土日に行ってくださいとなると、平日に行けないという子は行くと思う。自分が行かせることはない。子どもが行きたいといえば、行かせる。

I：減るでしょうね。完全に減るでしょう。学校の授業の一つの時間を使っていくから、やっていくので。それが全くカリキュラムから外れると任意になるので。今の段階では、意識が低いと思います。

20. <甲状腺検査の継続について>

○ずっと今後も受けていくことはどう思うか？ずっと受けてほしいか？受けた方が安心か？

D：35歳くらいは無料で受けられるようにして、震災時0歳の子が30、40歳になるころにはある程度のことはできていると思うので、裏付けなどないが。自分がここまで50年ほど生きて思うが、そこまで健康に過ごせていればいいのかと思う。

F：どうですかねえ、お知らせが来たら説明して、なるべく行ってもらう方向で話をする。それは一応言ってみます。（なぜか、に対して、福島県にそういうときにいて、この制度に今までこうやってきたから一応満期までやってもらいたいなあって。10年経って何か起きると原発の原因とも定かではないですけども、だったら逆に病気が見つかったそれならそれでいいかな。と。早期発見としていいんじゃないかなと思う。）

G：子どもに任せます。親としては、今までのようには受けなくていいかなと思う。10年一区切りで影響がないということが分かってきた。でも10年ではなく、20年100年単位と考えれば、長い目で見るべきかも分かんないですけど、今の段階でまあ大丈夫だろうと思っている。

H：それはすごくいいことだと思うが、受けられることがあるが遠いなら行かない。制度自体はいいと思う。10年経って傾向は見えているのではと思う。社会人になれば受けないと思う。

I：その制度はあっていいと思う。どこまでやっていくのか？義務教育の一環としてやるのならいいと思うが、任意になったら減ると思う。

21. <子どもが卒業してからの甲状腺検査について>

○学校を卒業して、自分で受ける、となれば、お子さんは受けに行くと思うか？

D：子ども3人とも、大きくなると受ける意識は年々薄れていくと思う。受けたい気も薄れてくると思う。日々の生活が忙しくなればそう思うのでは。

E：今のところは行かないと思う。選挙権もっても若い人が選挙行くかみたいなイメージでは。そんなものになると思う。自分で選べるようになれば、自分の青春時代の日を潰してまでって思うことはないと思う、相当、健康意識が高くないと行かないだろう。

F：うちの子は行くかもしれないですね。説明したら、分かったといってくれると思いますね。

G：「受けなくていいんじゃないかね？」と言うと思う。相談はすると思う。「受けなくていいよね？」と。ただ巣立っていくのは短期間でも感じていて、もう聞く相手が親じゃなくて友達になるんじゃないかなと思う。本人にどうするか聞かれても周りが「いいんじゃない？」と言えば、「じゃあ俺も」と判断するのはと思う。私たちはノータッチになっていくのかなと思う。

H：受けないと思う。「受けなくてもいいでしょ?」、「いいと思う」ということになると思う。

I：最初の一年は行くと思います。入学時は。これは分かんないから。学校の通知として入学前なら行くかも。入学と関係ないなら行かない。学校の提出物として必要だったら行くけど、自主的なら行かないです。意識はないです。

22. <甲状腺検査についての不安>

○「受けることで病気が見つかるかもしれない心配」と、「受けないことで病気が分からないこととの心配」は、どちらが心配か？

D：受けないで気が付かない方が怖いと思う。分かった時に手遅れだったということもあるし、受けて不安か安心かは結果によるが、知らないままで過ごして気が付いた時には…となるのが怖いと思う。

E：受けて見つかった方がいいと思う。

F：難しいですね。震災関係なく、私はいろんなものを受けているので、結果がそういうことになるかもしれないけど、見つかった時に末期というのは嫌なんで。（後者が嫌）

G：私は検査をしたい方なので、検査をして見つける方が安心。受けないことで分からないことが嫌です。

H：自分としては人間ドックなどで病気が見つかることが大事なので、見つからない心配の方が大きい。若い人はどうなのかなと言われると、若いからいいのではという判断もある。怖いので受けないという心理はありだと思う。自分は元気だし受けなくてもいいのではと思う子もいるのでは。

I：私はビビりですから、受けないことで、見つからない心配の方が怖いです。私は受ける側です。それには甲状腺がんは受けるかもしれない。私の年代だったら。うちの子もだったら受けないかもしれない。自分の年齢と体調を考えたら、自分ではいろんなところを見つけてほしいという気持ち。早期発見早期治療には賛同する。20代30代ならスルーしていたでしょう。

23. <甲状腺検査が完全な申し込み制になったら>

○今後、甲状腺検査の受診はどうするか？

※ 現時点でも学校での検査は申し込みにより実施している。

D：受診率は下がると思う。私も毎回は行けないかもしれない。今の方が受けさせやすい。どんなお母さんにとってもそう。面倒くさいというのも出てくると思う。学校でやっているから興味関心がない親御さんに受けさせることもできるが、もしそうになると行かない人もいる。

E：今のところは行かないと思う。

F：うーん、そうですね、必要とあらば県はやめないと思うので、県がデータもとれたし、結果がまとまったのかなと思うのでそう受け取る。

G：どうですかねえ、下の子はもういいかなあとなるかも。嫁が何というかは想像つかないんですが、申込制でも、学校でやってくれるんだったら受けようと思う。だけど、どっかに出向いて行かなきゃいけないとなれば、「まあいっか」となるかもしれない。

H: 行かないと思う。知識的に「いいや」という考え。大学に行った子が受けなくていいというのはその判断。

I: 私の年齢だったら私は受けますけど、子どもたちに意識はない。子どもには本人任せにします。

24. <過剰診断について>

○甲状腺検査を受けることはいいこと（得すること）ばかりだと思う？悪いこと（損すること）はあると思うか？ないと思うか？

→→検査を受けることで、検査を受けなかったら20歳とか40歳等、歳を取ってから、または検査をしないかぎり、一生、分からないままで見つからないような「甲状腺がん」というのもあって、それが検査で見つかってしまって、針を使った検査や場合によっては手術や、手術となれば、終わって、ずっとお薬を飲まなければいけなくなるようなことも、検査を受けることで起こることがあることは理解できるか？

その件について、どう思うか？

検査を受けたから、知らないままでも命に関係ない、損にならない、余計なとも言える病気が発見されるということもあるとすれば、検査についてはどう思うか？

D: 予後がいいといってもがんだといわれると取っておきたいと思う。子どもだから。絶対ではないというところの心配。経過観察でいいといわれたら1年ほど見て変わりがないことなど見たり、変化があったりなどフォローアップによる。がんをもっているといわれると不安だし、ゆくゆくは取った方がいいのでは、と思う。過剰診断について、ホルモン服用や保険についていることはいるが、県全体で受けることのデメリットとしては、難しいところ。怪しいものはその先に進んで検査した方がいいというのが医療の考えではあるが、そうなると悩む。過剰診断については初めて聞いた。検査しなきゃよかったとは思わない、それはそれで受け入れると思う。検査を受けなくて分からないままより分かった方がいいのでは。

E: 過剰に見つかるのでは、などの話題にはならない。検査について情報は圧倒的に少ない。地域の将来を担う子どもの健康状態を調べる甲状腺検査についていつこの地域でやるか、メリット・デメリットの説明会をもっときめ細やかにやるべき。

F: 見つからないで手遅れになるよりは見つかった方がいいと思うので、その先生によっては経過観察ということになればそうするし、もし取るとなれば取った方がいいんじゃないかなと思う。（薬を飲むことになれば）経過観察だといいんですけど、切った方がいいってなるんだったら…。どうしましょう。

それはよく分かる話。なんかその辺がクローズアップされていなくて、放射線が飛散していたから検査するっていうのが第一前提で、最初のころだったらやらなきゃいけないことがメインだと思ってデメリットを知っていてもやっていたと思う。放射線が飛散したことで子どもに影響がないことが優先順位で一番の心配事項のためにこの検査をしたことに同意していたので、過剰だから何でもないの異常所見が出てくるかもしれないというデメリットを知っても、そっちを優先していたかもしれない。何年たったらどうなるというのが今も分かんないですけど、分かんなかったんで、だんだんデメリットの方が大きくなっていく雰囲気じゃないですか。県からも「大丈夫だ」みたいなことになってくると受けなくてもいいのかなっていう雰囲気にはなりませんね。

G: 聞いたことはない。なので、先ほどの話につながると思うのですが、ここまで見てたから、この先は大丈夫かなというところですよ。その欧米がスクリーニングをしないということよりか、今までの福島が10年前は超異常事態じゃないですか。何が起こるか分からないよというく

らの危機というか。当時の福島はもうコロナのレベルではなく、心配というか、あったと思うんですが、それを経験しているからどっちをとるかというのは、今まではやっぱりその流れがあったと思うので安心・安全をとる。それこそ、それが見つかったらそれからどうするかは、いろんなデータからすると何もしないこともあるんだよと自分で選択すればいいので。不利益があることも分かって、選択の一つとして受けとめる。

H：過剰診断と生命的に危険がないがんについて、どちらも聞いたことはある。テレビで。手術のリスクを考えて問題ないのでがんと共存でいいのではという。医師の話聞く。妻の考えは、その時の状況によるのでは。手術をすることの術後の問題の抵抗感があると思うが、親としては、共存はありだと思ふ。何もしなくていいということがあればそれでいいと思う。待てるものなら待つ。子どもにメスが入ることで考える人はいると思う。正しい情報が選択に非常に重要。ここに合わせた正しい情報を与えられてその中から判断がされると思う。正しい情報のためのメリット・デメリットをちゃんと伝えるものは甲状腺がんに限った話ではない。過剰にみているから見つかって心配をあおっているのだから兼ね合いということになる。そのストレスが別の問題を起こすこともあるのでは。

I：初めて聞いたのですけど、もしそれが命に別条がないのでしたら手術までは手は出さないでしょうね。やっぱり傷つけたりとかは将来女の子だったら傷が気になるだろうし。お医者さんの方でがんだけ、さっきおっしゃったとおりの「がん」だったらしないと思う。女房もそういうと思う。（余計なものが見つかるから検査はしなくてもいいという意見はどう思うか？）やっぱり見つけた方がいいんじゃないですかね。命にかかわる、かかわらないの判断基準であって、命にかかわるなら早期発見でいいだろうし。やった方がいいと思う。

25. <今後の甲状腺検査の実施について>

10年目の現在、十分分かりやすい選択根拠となる情報源を提示された上で、今後も従来通り全員が学校で受けることを歓迎するか、それとも、学校以外の場所で希望者が受けられるような制度はどう思うか？

D：どのくらいで変化が出てくるかが分からない。震災の時0歳の子が10歳、20歳となった時のデータはあった方がいいのかなと思う。ただ、30、40歳台となると他の疾患なども気になるし、そこまですべて出てこなければ大丈夫なのでは。結婚して、30、40歳位とある程度のところ区切っているのでは。35歳くらいは無料で受けられるようにして、震災時0歳の子が30、40歳になるころにはある程度のことではできていると思うので、裏付けなどないが。自分がここまで50年ほど生きて思うが、そこまで健康に過ごせていればいいのかと思う。

E：個人的にはニーズはあると思う。

G：減ってきた人数でもういいんじゃないかという判断材料になるんじゃないかなと思う。子どもも、学校でやってくれるなら受けるという人もいるので、ちょうどいいということと考えたら受けさせたいと思う。ある程度の学校の検査は受ける人がよっぽど減るということになれば中止になったらいいと思う。今まで強制でそれで任意になって、それから10年前の今と比べると任意でやっても2、3割しか受けないなら学校でもストップするという理由にもなるんじゃないかな。

H：10年経って、発症がこういう%がでて、以前と比べてどうかということが関わってくると思う。受けたいという人に対しては受けることができるように、受けたくない人は受けなくていいし、受けたいということになれば受けられるようになればいいと思う。

I：反対ではない。

26. <学校の授業時間以外での甲状腺検査の受診について>

○学校の「授業時間」ではなく、放課後に検査を実施するとした場合、子どもに検査を受けさせたいか？受けさせたくないか？その理由は？

D：それもまた低学年の子は送迎がいるし、時間を作らないといけないので難しい。あとは習い事や部活もあるので、先生方は授業を潰してどこかでその授業をするなど大変だと思うが、学校にいるうちはデータ集めという意味と受診率に関してはそっちの方がいい。意外と子どもは昔の子より忙しいと思う。中学生とかだと余計そうなると思う。

E：そういう話なら放課後にすればいいのでは。今まで受けているなら受けるのでは。

F：あー、まあでも「受けなさい」って言いますね。多分大多数の人は受けると思うので。みんなやっているもんだと思っていたので、そうなったとしても保護者の人は「受けてから帰って来なさいよ」というと思うんですね。

H：行かないと思う。個々の判断になる。

I：個人判断に任せますけど、個人的には受けてほしいと。あとは日程のタイミングですね。

27. <学校の授業時間以外での甲状腺検査の受診について>

○学校での集団検査がない場合、学校以外の検査の場所でお子さんに検査を受けさせたい？受けさせたくない？その理由は？

D：受診率は下がると思う。私も毎回は行けないかもしれない。今の方が受けさせやすい。どんなお母さんにとってもそう。面倒くさいというのも出てくると思う。学校でやっているから興味関心がない親御さんに受けさせることもできるが、もしそうなる行かない人もいる。

E：特段の理由がなければ行くと思います。授業中にするのがいかなものかという声が強いなら変更してもいいと思うが、僕は授業中のままでいいと思う。

H：行かないと思う。知識的に「いいや」という考え。大学に行った子が受けなくていいというのはその判断。

28. <子どもが学校卒業後での甲状腺検査について>

○お子さんが高校をご卒業後は検査の継続はどうか？検査を受けてほしいと思うか？

D：そう思う。一方、受けたい気も薄れてくると思う。日々の生活が忙しくなればそう思うのでは。

E：今のところは行かないと思う。選挙権もって若い人が選挙行くかみたいなイメージでは。そんなものになると思う。自分で選べるようになれば、自分の青春時代の日を潰してまでって思うことはないと思う、相当、健康意識が高くないと行かないだろう。

F：一応します。十年以上たっているって言ってその話を聞くと、関係ないみたいになるとデメリットの方が大きいと本人が思うと、仕方ないのかなとおもう。今まで何もなかったので、その場合はいいであろうと思う。

H：受けないと思う。「受けなくてもいいでしょ?」、「いいと思う」ということになると思う。

29. <子どもが学校卒業後の甲状腺検査を受けない場合>
○卒業後には受けないとお子さんが言われたら、どうするか?

D：上の子がそうなりそうな勢いですが…親としては受けてもらって、そのあとに出てくるものに関しては自分で管理していく必要があるよという。

E：受けた方がいいよとは言う。震災直後に甲状腺の検査も含めて、福島の子供たちの健康状態をチェックするというところから始まったと思う。意識が高い人間は減っている。教育が足りていないから。放射線に関する教育をもっとすべき。私の娘が将来嫁に行くときにお前の娘は小学生のころに放射線を浴びたから結婚できないと言われたら、私は、放射能はこういうもので、甲状腺検査を行って健康だといえるかといえば言える人はいないと思う。そういう教育を子どもたちにもやってきていない。習慣化していることも、なぜやっているのかを親も子も知らない。そういう（健康だと言える人は）福島にもっと出てこないのかといわれると、出てこないと思う、あまりに情報がないので。

学校での教育がないと思う。私は聞かない。子どもたちが、私たちは放射線を浴びたけど放射能はこういうもので、私たちの体はこういう状態ですと堂々と言えるなら、甲状腺検査も二十歳を過ぎても能動的に行くと思う。この10年何をやってきたのかと思う。他の親御さんはどう思うかは分からないが、行かないですよ、多分。行かせるためにどういう教育をしてきたのかと思う。質問がずれていると思った。10年前のことから今まで甲状腺検査の教育など、子ども一人一人に落とし込んだ上で、子どもが20歳を超えてからも行くだろうかという質問なら分かる。これは何の会かと正直思っている。サンプル数は?（5名という返事に対し）それも少ないと思う。たった5人の意見はおかしいと思う。10年だからこそ、もっとやるべきかと。福島の親は、甲状腺検査や放射線の教育にして県がやってくれたかと聞けば、何もしてくれなかったと言うのでは。自分で甲状腺検査に行くぐらいの意識の植え付けをしたのか。

私よりも子どもにもっと接するお母さんなどにも聞くべき。（子どもが意思決定できるよう）文化として作り上げるべき、健康県といっているが何が健康かと。娘はそういうことを教わっていないと思う。まだ遅くはないと思っている。すぐそういうことをしてほしい。

F：親の手から離れると、ちょっと強制力が薄れる。学校みたいに必ず通うというものないし…。何かアイデアがあるのかなあ。チケットみたいなものを持って帰ってきたときに受けるとかかな、でもそうだといつでも受けれるとなると受けなくなるのかなあ。「忘れちゃったー」みたいになりそうですよね。18歳以下が難しいですよ。就職した子にしても進学した子にしても。

G：より検査を継続させるなら今、言われたような検査できる施設が増えることが理想だとは思う。だけど理想と現実は違うので…。ドライな言い方かもしれませんが、それでも受けたいと思う人は受けるし、今の環境でも。「もういいや」という人は行かないであろうし。もしやっぱ心配事があれば国は検査の体制をもっともっと増やすんじゃないかなと。今の体制は国のいい落としどころだと思うので、自己判断にはなるんですけど…。人数が減っていてもシステムがあるよと、受ける・受けないは本人次第で、「受け皿はありますよ」というのがベストなのかなと思う。

H：タイミングが受けた方がいいのなら受けるべきという。

I：自分の意志で行く手段ですかね？行政としては受けさせたいのか？受ける機会を提供したいということであれば、機会はあった方がいいと思うが、受けさせたいのであればそれに対する説明をしっかりとすべき。案内だけではできるけど県民に受けさせたいということであれば、甲状腺がんが見つかるかもしれないから来てくださいなどの説明が大事なんじゃないですかね。

○卒業後には受けさせない場合は、何らかのサポートがあったら受けるか？どういうサポートがあったら受けることを考えるか？

D：日程指定があると難しいので、ある程度「この辺り」と提示された方が行きやすいのかなと思う。「広い期間にこの場所で行ってくださいね、よりも短い期間でここに来て」という方がいい。広く緩くより、この期間、という方がうちの場合は、ずるずる…ということにならない。

E：まず行くのが面倒くさいので自分の近いところで受けられるように、地方に行ってもできるようにしたい。毎年、福島県に行かなければならないとかそういうことはないようにしてほしい。教育は、冊子だと見ないと思う。授業の一時間くらい潰しても情報を伝えさせるべきかと思う。

H：今は2年に一回だが、帰ってきたときにいつでもできるようにするのがいいのでは。

30. この古い検査のお知らせと新しい検査のお知らせについて（新しい検査のお知らせは、検査のメリットとデメリットが明示されている）。そのことへの感想。

F：結構ドキッとすることですね。大体の内容が。がんが早期に分かった場合、普通の生活に支障をきたすとか、まだ若いのに、ええーっと思う。10代で見つかって生涯生活に支障をきたすとなればええーっと思う。結局心のサポートしかない。物質的なことではなく、内面的なことしかないんかい、という。悩ましいところですね。知らなくていいのに知ってそれが病気っていう。こういうことってあるんですかね。なんかちょっと怖いですね。少し受けさせるという気持ち縮む。よく読んだら、ちょっと不安があります。話し合ってみても子どもには判断できないと思います。この文言通り言うと「やだよお」と言うと思います。検査を受ける人はよくちゃんと読んだらやめようかなと思う。10年経ったこともあるし。医大の話としては大丈夫ということなので、最初のころよりは大丈夫だと受け止めているのでこれを機会にいいかあとになります。みんな悩まれます。普段こんなことを考えたことがない。あの封筒すら見ないこともあると思います。くまなく読んでいる人もいますけど、また来たなと思っている人もいますので…。事実というか、知る権利というか、知ることは必要なので、そして選択ということになるので書くことは正しいと思う。赤でびっくりさせるということも大事だと思う。これが来るということはだんだん終わらせたいのかなって受け取ったんですけど。今までデメリットについて知らしてこなかったのに急に書くようになったってことはだんだん終わってもいいよっていう雰囲気なのかなと。もっと続けてやりたかったらここまで強くなくてもいいのかな。それを理解してもらえればいいと思うんですけど。それでやめる人もいると思うし、やってみるといふ人もいるから選択なのかな。情報は否定しないです。

G：どうなんだろうなあ。減るような感じはしますね。僕はこれでいいと思います。結局のところは、見つかって放っておいてもいいようなものが見つかったらやうかも分かんないよというこ

とは言っておいてあげるべきだと思う。文言はこれくらいはっきり言っておいてこれで検査拒否となった場合はその人の元々の考えになると思うんですね。僕はこれを載せるべきだと思います。それで減るんだったら致し方ないのかなと。これを見て「嫌だ」と思う人はいると思うので。これだけ年月も経ってきているので。デメリットは言っておかないと。そこまでちゃんと書いてあるのであれば、両方読んだ上でちゃんと判断ができると思うので、載せるべきで、少しは減ると思う。そんなには減らない気もするなあ。

I : 文章が苦手であんまり見ないんですよ。イラストのメリットデメリットを作った方が絶対見ます。読まない。スルーされる可能性は十分にある。漫画のような冊子を作った方がみる。お母さんもそうでしょう。文書的なのは避けた方がいいと思います。まずイラストが必要ですし、メリットを見ちゃいけないQRコードとかにすると絶対見ます。商売だとそういう風にします。でもこの内容は機会を与えているだけなので、メリット・デメリットだけでいいのではと思う。「受ける」というのなら話は別ですが、これで意思決定はできると思う。これでいいと思う。メリット・デメリットありますので、「判断は皆さんに任せます」と言うと思います。こういう機会があると報告するだけなので。このやり方はいいと思います。賛同です。子どもに分かりやすいように漫画にするべきですね。